

アイヌと北方民族

オホーツク海周辺の先住民族は何世紀にもわたって交易と文化交流を行ってきました。その結果、彼らの衣服、道具、工芸品には明確な類似性が見られます。アイヌは北サハリンと下アムール川のニヴフ族、北サハリンのウイльта族、アムール川のウルチ族など、複数の民族と交易を行っていました。

これらの北方民族の伝統的な衣服は、北極圏の気候と彼らの生活様式に適した共通のデザインを持っていました。アザラシの皮や鹿革で作られた長靴や上着は保温性に優れ、柔軟で防水性のある鮭の皮は暖かい季節の雨具として効果的なものでした。これらの衣服は袖口と裾に装飾が施されていました。アイヌの衣服の袖口と裾に見られる渦巻き模様、棘模様、幾何学模様は、アムール川流域やサハリン地域の民族の衣服に見られる模様と類似していました。

服飾品は、ユーラシア大陸各地の素材で作られており、交易のさらなる証拠となっています。

アイヌは獣皮や鷹の羽を、中国、ロシア、中央アジアのガラス玉や、中国や日本の本州の大きな金属製メダリオンと交換していました。これらは儀式の際にアイヌの女性が身につけるネックレスに加工されました。同様のメダリオンは、アムール川流域に住む少数民族ナナイの遺跡から

も発見されています。

北方民族は類似した音楽の伝統を持っていました。樺太アイヌと北海道アイヌが使用する 5 弦の琴である「トンコリ」は、ニヴフの「トゥンクルーン」に似ています。竹で作られたアイヌのムックリ（口琴）は、サハリン、シベリア、ヨーロッパの金属製の口琴に似ています。